

今日の説教のポイント<詩編 1 2 2 編>

①行くことが嬉しいと思える教会を皆で今年も築いて行こう！

「主の家に行こう、と人々が言ったとき、わたしはうれしかった」(1)。旧約時代の信仰者の聖地エルサレムの神殿に詣でることへの心からの喜びが伝わって来る言葉です。今の私たちにとっては、教会へ礼拝に行くときの気持ちに当たります。「教会へ行くのが嬉しい」、今年もまた、そんな気持ちを抱いて日曜日の朝に家を出られ、礼拝を捧げる教会を築いていきたいと思えます。

②そう思える理由 1 主の御手の中にあることを覚えられるから！

では、この信仰者はどういう理由でエルサレムの神殿に行くのがそんなに嬉しいのでしょうか？ 「エルサレムよ、あなたの城門の中にわたしの足は立っている」(2)。「立っている」は「立っていた」と訳し、神殿詣でから帰って来た後、自分の家で思い出しているのだと考える人もいます。主が神殿を設けられたエルサレムで、「私は神様の御手の中に置かれているのだ」と強く覚え、それが今の場所での生活の中でも言えることを確信できたのです。これも、今の私たちが主の日毎に教会の礼拝に出る中で教えられ、帰ってからも覚えられることと同じです。

③そう思える理由 2 この世の創造主にして支配者なるお方の確信！

「主の御名に感謝をささげるのはイスラエルの定め。そこにこそ、裁きの王座が、ダビデの家の王座が据えられている」(4-5)。イスラエルの民が神様を指し示す役割を与えられた民であることが考えられています。私たちも、その神がイエス・キリストをお与え下さったことを示すために立てられた新しい神の民です (I テモテ 3:14-4:5 真の教会の姿)。

④教会のために祈ることは、私たちと全ての人ための平和を祈ること！

エルサレムの平和とそこに集う人々の平和のために祈ることが一つとなっています。今の私たちが教会のために祈って仕えることが、結局はそこに集う人々に主の平安がもたらされることに繋がるのと同じです。喜びと使命を生む教会生活を今年も大事にしていきましょう！